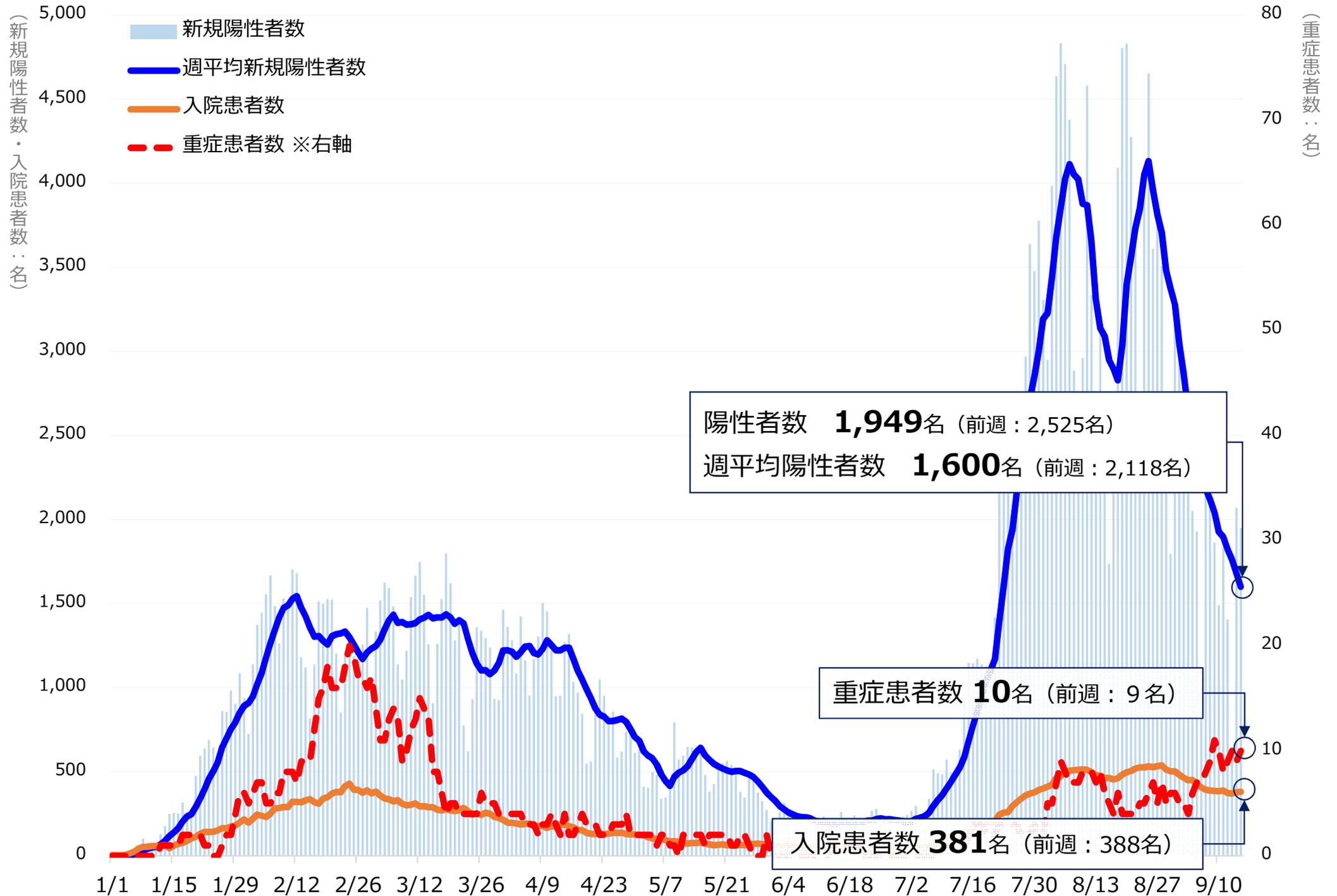


# 県内の新規陽性者数・入院患者数の推移 (1/1~9/15)



# 「発生届の限定」に係る医療機関のアンケート結果（仕事量の増減）

※220916茨城県医師会会長会見資料（抜粋）

- 県医師会のアンケート調査において、**6割が「仕事量が減少」、1割弱が「仕事量が増加」と回答。**  
※同時調査：9/5～9/6の患者は約9,000名、うち陽性は約3,850名（陽性率43%）、うち発生届対象約560名（陽性者の15%）
- 特に、**2日間で40名以上を診察した医療機関では、8割以上が「仕事量が減少」と回答。**

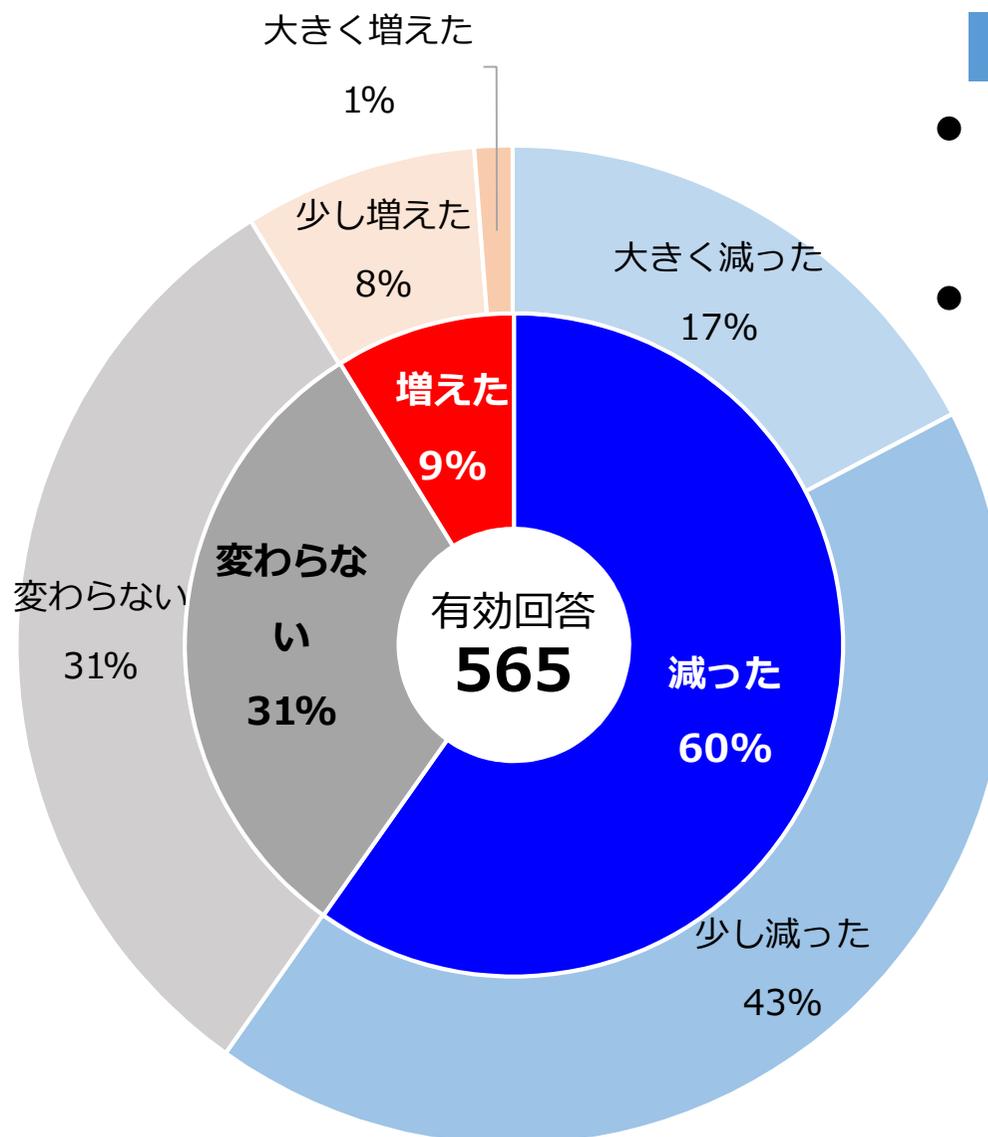
## 仕事量が増加

（仕事量が変わらない）

- 患者への説明事項（療養期間や証明書等）が増加した。
- 保険に用いる証明書等についての問合せが増加した。
- 発生届の対象か否かを判断する必要が生じた。

## しかし

- 茨城県による療養期間の早見表の作成（県ホームページ）
  - 民間保険各社による必要書類の明確化
- などが進んでおり、今後は、より一層、**診療に注力できる**と期待。



## 仕事量が減少

- 発生届の対象外となる患者が多く、システム入力の負担が減少した。
- 患者への聞き取り項目が減少した。

調査期間：9/8～9/11  
対象：県内診療・検査  
医療機関 809  
有効回答数：565  
有効回答率：70%

# 保健所別の発生届の件数

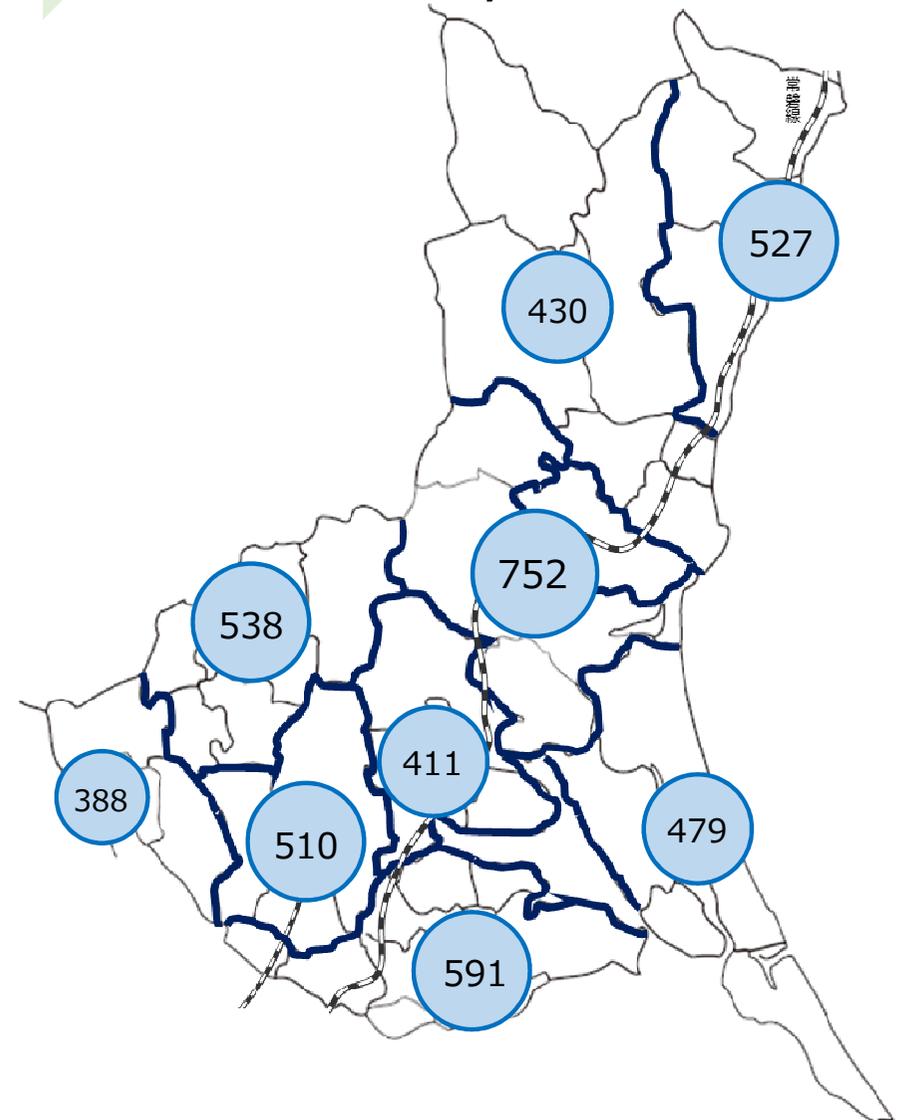
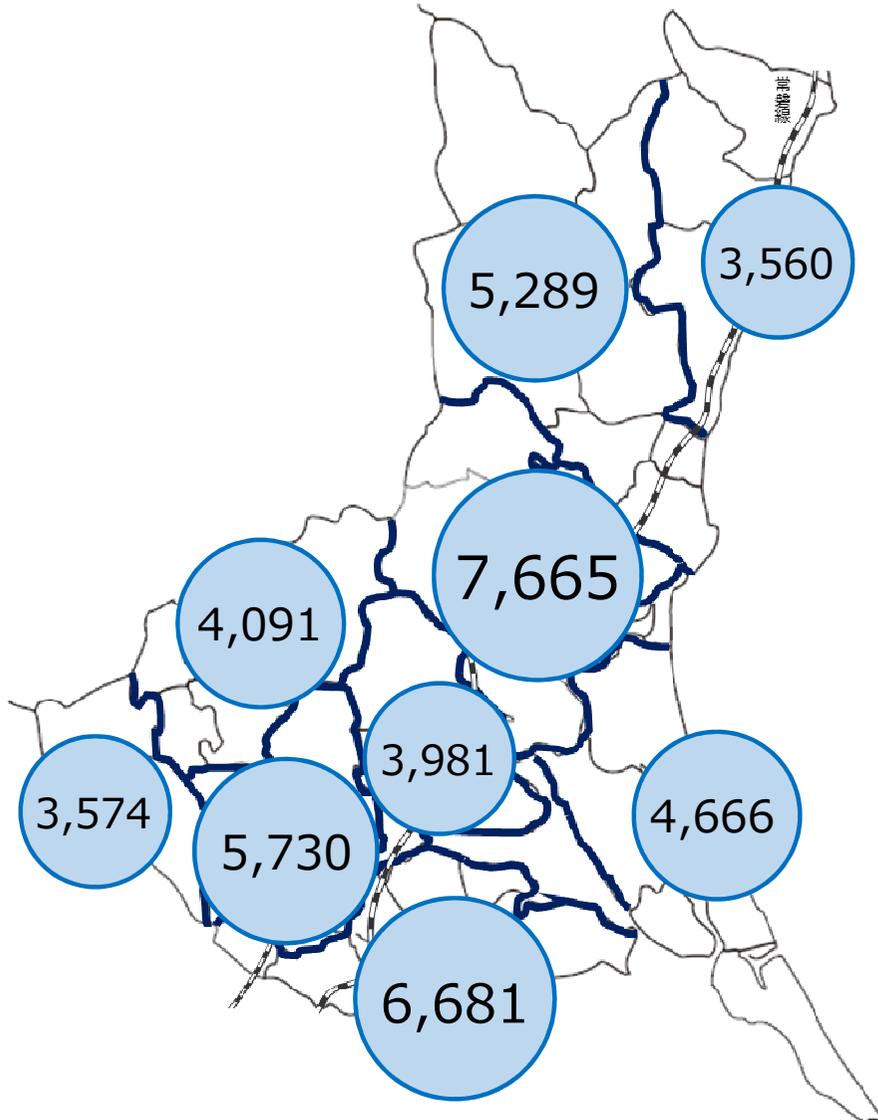
8/19～9/1 (14日間)

合計：45,237 件

9割減少

9/2～9/15 (14日間)

合計：4,626 件



## 保健所の意見

- ◆ 発生届の減少で業務負担が軽減され、高リスク者に注力できる。  
⇒福祉施設で陽性者が発生した際、円滑な初動体制が可能に。